

## 今日のシライ中

白井の愉快的仲間たち

VOL.17

## クロアゲハ

3Aの廊下の窓から見える木々の間を優雅に舞う「クロアゲハ」。掃除の開始時に並んでいるとき、よく気づきます。皆さんは、「アゲハチョウ」をご存じですか？もちろん、知っていますね。さて、その「アゲハチョウ」、実は、種類がいろいろあるということは、ご存じですか？日本で見られる「アゲハチョウ」は9種類ほどです。



よく見られるのは、「ナミアゲハ」「キアゲハ」「クロアゲハ」「アオスジアゲハ」といったところでしょうか。苦手でない人は、幼虫の画像を比べてみてください。それぞれに個性があり、見間違えることはありません。「アゲハ」の幼虫は、柑橘系の植物を好みます。(ちなみに、我が家では、「アゲハ」のために、ミカン、山椒、パセリを植えています!) さて、「アゲハ」の幼虫は、何回か脱皮し、終齢幼虫を経てさなぎになります。まず、初期のころの「アゲハ」の幼虫の姿は、黒のあやふやな色合いに、白がまだらに入った、まるで、「鳥の糞」のようです。そうです、まさに「鳥の糞」に擬態しているのです。そこから、もりもり葉を食べ、(幼虫は、葉を縁から縦にきれいに食べていきます。大した食欲で、見ていて飽きません。) しばらくすると、皆さんおなじみの、あの「緑」の芋虫になります。緑の芋虫になった後は、ピンチになると、オレンジの「臭角」を出し、威嚇します。さて、さなぎになり、無事、羽化すれば幸せですが、なかなかそう簡単にはいきません。鳥などの天敵のほか、実は、寄生するハチ、ハエなどの敵からも逃れなければならないのです。悲しいかな、一定の割合で寄生されている芋虫はいます。しかも、さなぎになるまで元気で外見からはわからないことも多く、寄生する方もしたたかです。さて、背中に卵を産み付けられて……。と思いがちな寄生ですが、存外、食べる葉そのものに卵が産み付けられていることも多く、幼虫を飼育する場合、葉を丁寧に洗うことも大切です。(と、だいぶ前、私の「虫の師匠」が5年生の時、大人の私に教えてくれました。) また、そのさなぎにもたくさんの不思議があります。皆さんは、「さなぎ」が動くことをご存じですか？もちろん、あんな形ですから、歩き回ることにはできませんが、刺激されればくねくね動いたり、音を立てたりします。また、「アゲハ」のさなぎは、さなぎになる場所の色になるべく近づけて、擬態します。そして、羽化が始まるとき、あの、さなぎの中に美しい蝶の羽が透けて見えます。本当に神秘的な光景です。さて、これらの「アゲハ」のうち、私が一番好きなのは、「アオスジアゲハ」です。この幼虫の食性は「シナモン」とおしゃれです。

